

急性弛緩性麻痺(AFP)<sup>\*</sup>の発症状況

\*：15歳未満の症例。急性灰白髄炎(ポリオ)を除く。

## ● AFP届出の義務化

2018年5月1日

— 15歳未満の「AFP」が、感染症法に基づく5類感染症全数把握疾患に指定 —

- ・ 診断した場合は管轄の保健所に7日以内に届け出ることが義務づけられました。
- ・ AFPサーベイランスは、**世界ポリオ根絶計画**のため、多くの国々で導入されています。

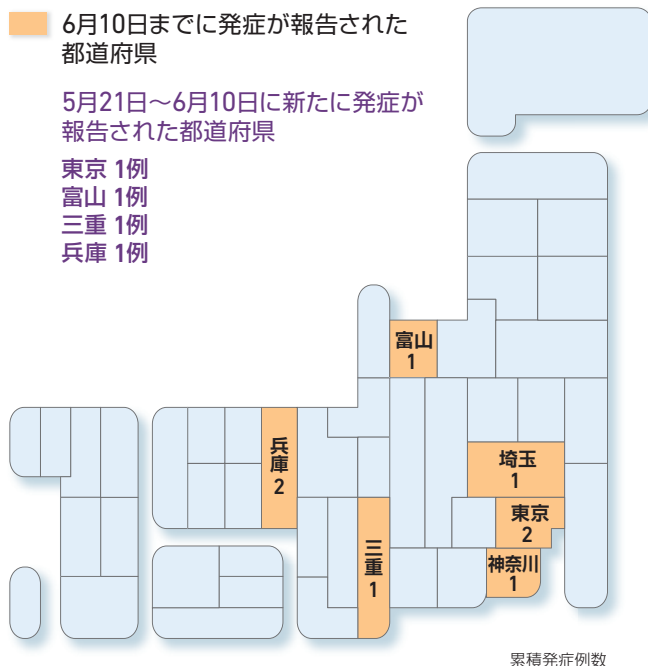
## 【届出症例の病原体検索】

- **ポリオウイルス検査は必須**  
[24時間以上あけて2回採取した便の検査]
- **基本的には非ポリオエンテロウイルス検査を実施**  
[麻痺発症早期の5点セット：血液、髄液、呼吸器由来検体(咽頭ぬぐい液必須)、便、尿]
- **不可能な場合は国立感染症研究所で行政検査**

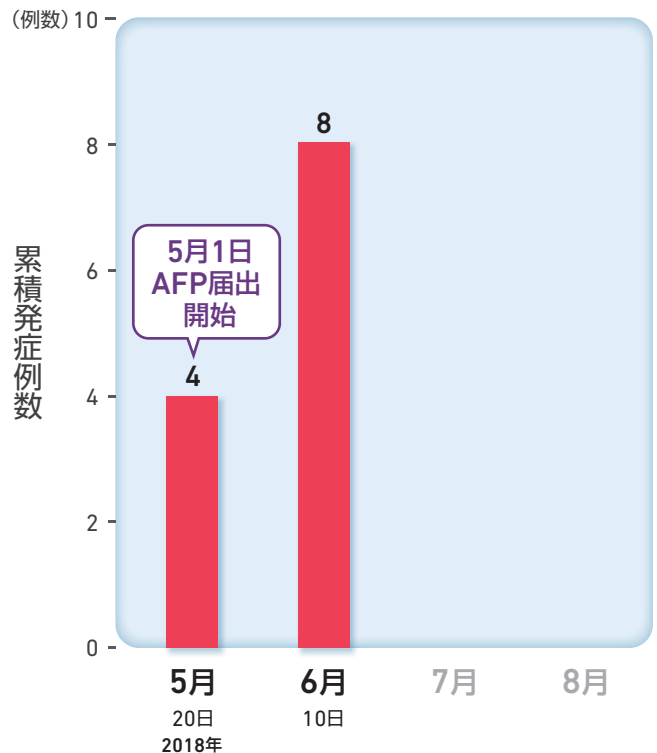
日本小児科学会、予防接種・感染情報、15歳未満の「急性弛緩性麻痺」の全数届出について  
(2018年6月4日アクセス：http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/AFP\_surveillance201805.pdf)

## ● AFPの発症が報告された都道府県

2018年5月1日～



## ● AFPの累積発症例数(2018年5～6月)



国立感染症研究所、感染症発生動向調査週報より作成

・ 2018年 第20巻 第20号 P.18～32 (2018年6月4日アクセス：https://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2018/idwr2018-20.pdf)  
 ・ 2018年 第20巻 第23号 P.15～29 (2018年6月22日アクセス：https://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2018/idwr2018-23.pdf)